

モデル事業名	体験・滞在型ツーリズム産業創造によるコミュニティ再生事業
活動団体名	下川町もてなし隊育成協議会
ホームページ	
所属／ 担当者名	事務局：財団法人下川町ふるさと開発振興公社 クラスター推進部 武田浩喜
連絡先	01655-5-2770
活動地域	北海道上川郡下川町

### ● 活動地域の概要

- ・下川町は、北海道の北部に位置し、町の総面積644.20km<sup>2</sup>の約9割を森林が占め、農林業を基幹産業とする農山村地域であり、年間の最高気温は30℃を超え、最低気温は-30℃を下回ることもある寒暖差の激しい地域である。
- ・人口は、3,707人(平成22年4月1日)とピーク時の1/4まで減少しており、高齢化率も平成17年度国勢調査では、33.3%となっている。
- ・旭川空港から車で2時間。札幌からは高速自動車道を利用して3時間の距離にある。
- ・北海道の冬の風物詩であるアイスクャンドル発祥の地として冬の「しばれ」を活用した「アイスクャンドルミュージアム」の開催や日本最北の手延べ麺産地としての「うどん祭り」の開催、体験型の地域資源である「万里長城」の築城など、滞在・体験型ツーリズムを構成する新たな資源が構築されている。
- ・短期・長期の滞在が可能な受入施設である地域間交流施設が整備されている。
- ・本町においては、環境と社会に配慮し、経済的にも持続可能であるとの国際的な認証である「FSC森林認証」を北海道で初めて取得した豊富な森林資源を背景に「林業体験ツアー」の先駆的实施、林業体験と森林療法を組み合わせた「森のアロマツアー」を展開している。
- ・また、国が「低炭素社会」への転換を進めるため、先進的な取り組みにチャレンジする地域として「環境モデル都市」に認定されており、本町が長年にわたり取り組んできた循環型森林経営を基盤とした地域づくりが全国の農山村地域からモデルとして注目され、新たな交流が期待される状況である。



【位置図】



【体験型資源「万里長城」】



【地域間交流施設】

### ● 活動地域の課題

- ・下川町は、持続可能な森林経営を目的に森林資源の造成と適正な管理を実施し、循環型の林業経営を確立しており、基幹産業の振興による地域の活性化を図っているが、過疎化の進行している農山村地域において地域を担う人材の確保は重要な課題となっており、地域資源を活用した交流人口の増加や二地域居住、移住促進への取り組みは地域を活性化させるために重要な要素となっている。
- ・しかし、地域資源は豊富に存在するものの、交流産業を支える体験・滞在型のプログラムメニューが確立されておらず、また、都市への情報発信が不足していることから交流が進まない状況にある。
- ・さらに、下川町への訪問者を受け入れる人材や組織が育成されておらず、おもてなしの心を持った対応が困難な状況にある。
- ・このため、本事業を活用し、滞在・体験型ツーリズムの創造や都市住民へのPR活動の展開、受入体制の充実を図り、交流人口の増加によるリピーターの確保、二地域居住や移住を促進する活動を実施し、コミュニティビジネス創出による雇用確保や消費拡大による地域の活性化を目指すものである。

## ● 活動の内容

### (全体)

- ・農山村地域である下川町の交流人口の増加を図り、地域の活性化を推進するため、体験プログラムの充実や受け入れを担う人材育成を目指した活動を展開している。
- ・これまでに、受入体制を担う人材育成を目的とした研修会の開催や、NPO法人森の生活が実施している森のツーリズム事業を核に他の地域資源を活用した体験、滞在型プログラムの開発とモニターツアーを企画実施し、参加者アンケートなどの分析や取り組みを検証し、その課題を整理するとともに、交流人口の増加に向けた活動を展開している。

### (直近1年間の進捗など)

- ・平成21年度までの活動をもとに、平成22年度は町外者が訪問した際、地域に期待する事項の一つである「食」の開発を目指し、地元産小麦「ハルユタカ」を活用したご当地グルメと新商品の開発に取り組んでいる。
- ・これまで、地元飲食店関係者によるワークショップや加工品、メニューの試作及び試食審査会を開催している。

## ● 活動の成果

### (全体)

- ・「NPO法人森の生活」が実施する森林ツーリズム事業などの体験プログラムの評価は高く、今後はこれらを核にプログラムの充実が期待できる状況にある。
- ・体験、滞在型ツーリズム参加者の満足度向上には、実施されるプログラムの質の高さが求められると同時に、地域の「人」との交流が満足度を左右する大きな要因であることが再確認された。
- ・「もてなし隊」の活動が目に見える形で表れており、受け入れを担う「もてなし隊」の拡充に向け、人材育成と更なる活動を展開している。



【体験ツアーの様子】

### (直近1年間の成果など)

- ・森林バイオマスの先駆的な取り組みによる視察者が増加しており、産業観光としての確立に期待ができる状況にある。
- ・「もてなし隊」の活動とともに、「食」でのおもてなしに対する意識が高まり、地元産小麦「ハルユタカ」を活用したご当地グルメの開発を進めている。



【ワークショップ】



【ご当地グルメ試作品（ピザ）】



【ご当地グルメ試作品（つけ麺）】

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

- ・地域資源を活用した体験プログラムの質の向上と受け入れを担う人材の更なる育成が必要である。
- ・森林、自然、環境などに興味を持つ客層が広く薄く分布しており、効果的な情報発信が求められている。
- ・ツアーの評価を左右する地域の食材を活用した季節感あふれる食事メニューや土産品の開発が必要である。
- ・町内および近郊への移動手段として、自動車は欠かせないが、現状では、不満を示す滞在者が多い。

### ・展望

- ・NPO法人森の生活が実施するプログラムを核に良質な体験提供体制の構築とともに、受け入れを担う人材育成を進める。
- ・森林、自然、環境などに関心の高い客層へ効果的に情報提供できるPR方法を検討する。
- ・飲食店や惣菜店などと連携し、地域色あふれるご当地グルメと新商品の開発を進める。
- ・移動手段確保のため、レンタサイクル、カーシェアリング、格安レンタカー制度の創出を関係団体等に働きかける。